

日本一、働きやすい県庁(しょくば)アンケート2023の概要

令和5年12月20日
中央労使協働委員会
労使協働小委員会

1 調査の目的

本アンケートは、県と県職員労働組合が「労使協働」の取組の一環として、職員の満足度や意欲・問題意識等に関する状況を把握し、今後の「日本一、働きやすい県庁(しょくば)」の取組を推進していくために実施するものです。

2 調査方法

(1) 調査対象

職員 4,967 人(派遣職員等を除く)を対象に実施しました。
なお、有効回答者数は 3,012 人、回答率は 60.64%でした。

(2) 調査期間

令和5(2023)年10月2日～10月20日

(3) 調査内容

「日本一、働きやすい県庁(しょくば)」を実現するために必要と考えられる6つのテーマに分類し、集計しました。

- | | |
|--------------------------|--------|
| ① 安全・安心に関すること | (設問6問) |
| ② 時間に関すること | (設問5問) |
| ③ 男女共同に関すること | (設問4問) |
| ④ 職場の「支えあい」を実現するために | (設問5問) |
| ⑤ 意欲を持って働くために | (設問6問) |
| ⑥ ライフ・ワーク・マネジメントを実現するために | (設問2問) |

計28問について、「そう思う」「やや思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4つの選択肢により、職員がどれだけ満足しているかについて調査を行いました。

また、追加調査として、昨年度の調査結果をふまえ、満足度の低い部局の詳細を把握するため、子ども・福祉部を対象に追加の質問項目を設けました。

(4) 算出方法

上記(3)の28問については各設問5点満点で、全体で100点満点となるように割り戻し算出しました。

また、追加調査では、仕事の満足度を高めるうえで重要と考えられる項目の設問について、傾斜配点により回答の重要度を算出しました。

3 調査結果の概要

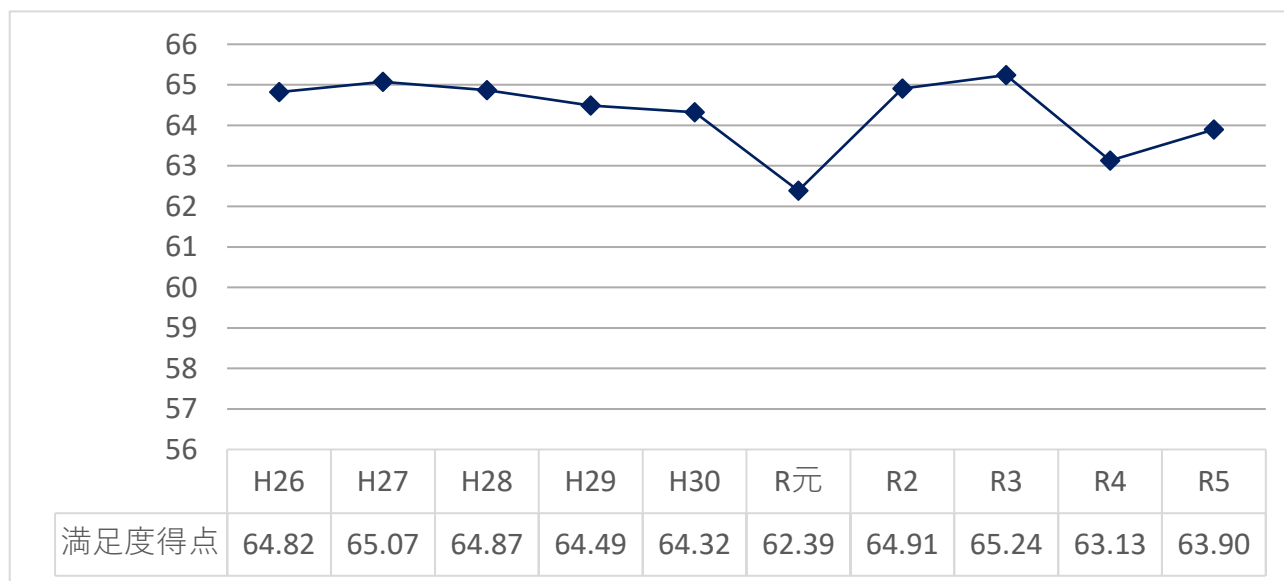
(1) 全体の満足度（別紙1）

全体の満足度は63.90点となり、昨年度より0.77点上回ったものの、現在の設問となったH26以降、過去10年間で下から3番目に低い満足度となりました。

（参考）職員アンケートの全体満足度得点推移

H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
64.82 ⑤	65.07 ②	64.87 ④	64.49 ⑥	64.32 ⑦
R元 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
62.39 ⑩	64.91 ③	65.24 ①	63.13 ⑨	63.90 ⑧

※ ①～⑩はH26以降の順位を表しています。



(2) 設問別の満足度

設問別の満足度の得点については、次のとおりです。上位3項目、下位2項目ともに、順位は昨年度から変化がありませんでした。

① 得点上位・下位5つの設問

順位	設問内容		得点 (昨年度比)
1	問12	子育て・介護への理解	3.85点 (+0.05点)
2	問8	通勤時間	3.78点 (▲0.01点)
3	問4	仕事上の相談相手	3.69点 (▲0.02点)
4	問15	性別にかかわらない能力の発揮	3.68点 (+0.02点)
5	問5	ハラスメント	3.68点 (▲0.01点)
・		・	・
・		・	・
・		・	・
24	問11	業務見直し	2.79点 (+0.12点)
25	問25	人事異動 (配置)	2.79点 (0.00点)
26	問28	充実した働き方、生き方	2.78点 (+0.09点)
27	問1	職場環境	2.76点 (+0.14点)
28	問26	昇任のしくみ	2.49点 (▲0.06点)

② ライフ・ワーク・マネジメントに関する設問 (参考)

順位	設問内容		得点 (昨年度比)
13	問27	充実させていこうとする雰囲気	3.28点 (+0.11点)
26	問28	充実した働き方、生き方	2.78点 (+0.09点)

③ 昨年度との比較

昨年度から点数が上がった設問は20項目あり、うち0.10点以上の上昇は、次の6問です。
「休暇取得」「総勤務時間」「職場環境」の設問において、点数が大きく上昇しました。

昨年度比	設問内容		得点 (順位)
+0.14点	問7	休暇取得	3.49点 (8位)
+0.14点	問10	総勤務時間	3.33点 (12位)
+0.14点	問1	職場環境	2.76点 (27位)
+0.12点	問11	業務見直し	2.79点 (24位)
+0.11点	問27	充実させていこうとする雰囲気	3.28点 (13位)
+0.10点	問17	連続休暇	2.83点 (22位)

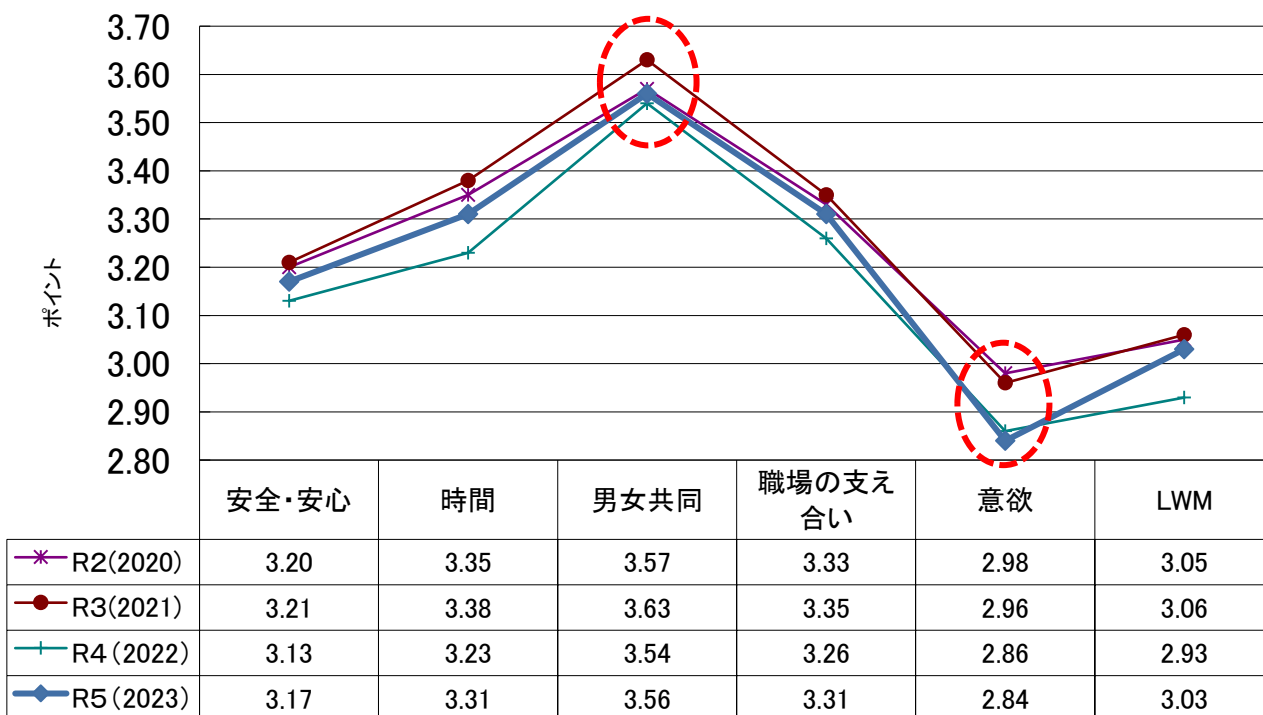
昨年度から点数が下がった設問は次の6問で、いずれも下がり幅は0.1点未満でした。「給与」「昇任のしくみ」の設問がワースト2を占めています。

昨年度比	設問内容		得点 (順位)
▲0.09 点	問 24	給与	2.88 点 (20 位)
▲0.06 点	問 26	昇任のしくみ	2.49 点 (28 位)
▲0.06 点	問 14	子育て・介護の制度	3.15 点 (16 位)
▲0.02 点	問 4	仕事上の相談相手	3.69 点 (3 位)
▲0.01 点	問 5	ハラスメント	3.68 点 (5 位)
▲0.01 点	問 8	通勤時間	3.78 点 (2 位)

(3) テーマ別の満足度

直近4年間で6つのテーマ毎に集計したところ、いずれの年度も「男女共同」に関する満足度が最も高く、「意欲」に関する満足度が最も低い傾向があります。

令和5年度は、「意欲」以外のテーマに関する満足度は、昨年度と比較して高くなりました。一方で、「意欲」に関する満足度は、直近4年間で最も低い結果となりました。



(4) 属性別の満足度（別紙2）

① 所属区分別

所属区分別の満足度については、昨年度と比較して、「地域庁舎の事務所」では低くなりましたが、「県立学校」では増加幅が大きくなるなど、「地域庁舎の事務所」以外で満足度が高くなりました。

順位	所属	得点	昨年度比
1	県立学校	68.02 点	4.19 点
2	他の地域機関	66.08 点	1.29 点
3	本庁	63.30 点	1.05 点
4	地域庁舎の事務所	62.68 点	▲0.81 点

② 部局別

部局別の満足度については、上位3位が「出納局」（78.64 点）、「病院事業庁」（70.00 点）、「総務部」（69.95 点）となる一方、下位3位が「子ども・福祉部」（54.23 点）、「議会事務局」（59.67 点）、「県土整備部」（60.08 点）という結果となりました。

また、昨年度と比較すると、「防災対策部」（6.11 点）や「出納局」（5.68 点）、「教育委員会事務局・県立学校」（4.70 点）において、増加幅が大きくなりました。

③ 所属区分・部局別（昨年度からの増減幅）

【本庁】

〈増加幅が大きい部局〉

所属	得点	昨年度比
プラスが大きい上位3項目		
防災対策部	64.90 点	+6.20 点
① 「10 総勤務時間」 0.85 点 ② 「15 性別にかかわらず能力の発揮」 0.56 点 ③ 「13 男性職員の子育て・介護への理解」、 「7 休暇取得」 0.51 点		
教育委員会事務局	62.26 点	+5.95 点
① 「10 総勤務時間」 0.68 点 ② 「11 業務見直し」 0.61 点 ③ 「27 充実させていこうとする雰囲気」 0.57 点		
出納局	78.64 点	+5.68 点
① 「7 休暇取得」、 「28 充実した働き方、生き方」 0.67 点 ③ 「17 連続休暇」 0.64 点		

〈減少幅が大きい部局〉

所属	得点	昨年度比
マイナスが大きい上位3項目		
病院事業庁	70.00 点	▲14.76 点
① 「9 仕事配分、業務量」、 「11 業務見直し」 ▲1.56 点 ③ 「10 総勤務時間」 ▲1.44 点		
各種委員会	61.69 点	▲2.51 点
① 「17 連続休暇」 ▲0.69 点 ② 「6 福利厚生事業」 ▲0.48 点 ③ 「11 業務見直し」 ▲0.44 点		
地域連携・交通部	62.93 点	▲1.99 点
① 「2 精神的不安」、 「3 心と体の健康」 ▲0.28 点 ③ 「14 子育て・介護の制度」 ▲0.26 点		

【地域庁舎の事務所】

〈増加幅が大きい部局〉

所属	得点	昨年度比
プラスが大きい上位3項目		
総務部	71.32点	+3.31点
①「1 職場環境」0.57点 ②「7 休暇取得」0.54点 ③「23 正当な評価」0.47点		
医療保健部	58.05点	+1.22点
①「10 総勤務時間」0.72点 ②「17 連続休暇」0.44点 ③「9 仕事配分、業務量」0.36点		
農林水産部	66.50点	+0.95点
①「11 業務見直し」0.25点 ②「21 やりがい」0.19点 ③「19 方針等決定への参加」、 「27 充実させていこうとする雰囲気」、 「28 充実した働き方、生き方」0.18点		

〈減少幅が大きい部局〉

所属	得点	昨年度比
マイナスが大きい上位3項目		
子ども・福祉部	58.80点	▲6.12点
①「3 心と体の健康」、 「14 子育て・介護の制度」▲0.76点 ③「19 方針等決定への参加」▲0.75点		
教育委員会事務局	80.82点	▲1.21点
①「9 仕事配分、業務量」▲1.06点 ②「8 通勤時間」▲0.67点 ③「28 充実した働き方、生き方」▲0.42点		
地域連携・交通部	69.30点	▲1.20点
①「21 やりがい」▲0.43点 ②「22 個性や能力の発揮」▲0.39点 ③「3 心と体の健康」▲0.27点		

【単独地域機関・県立学校】

〈増加幅が大きい部局〉

所属	得点	昨年度比
プラスが大きい上位3項目		
環境生活部	64.31点	+11.07点
①「7 休暇取得」1.06点 ②「2 精神的不安」1.05点 ③「13 男性の子育て・介護への理解」1.02点		
政策企画部	85.42点	+9.94点
①「11 業務見直し」1.83点 ②「6 福利厚生事業」1.33点 ③「18 情報共有」1.25点		
県立学校	68.02点	+4.19点
①「28 充実した働き方、生き方」0.48点 ②「7 休暇取得」0.36点 ③「19 方針等決定への参加」0.34点		

〈減少幅が大きい部局〉

所属	得点	昨年度比
マイナスが大きい上位3項目		
子ども・福祉部	58.63点	▲2.99点
①「19 方針等決定への参加」▲0.67点 ②「16 人間関係」▲0.61点 ③「18 情報共有」▲0.59点		
雇用経済部	64.95点	▲2.13点
①「16 人間関係」▲0.35点 ②「26 昇任のしくみ」▲0.34点 ③「9 仕事配分、業務量」▲0.28点		

※単独地域機関で、昨年度よりも満足度が低下したのは2部局のみ。

③ 地域庁舎別

地域庁舎別の満足度については、「熊野庁舎」(70.11点)が最も高く、「津庁舎」(57.74点)が最も低い結果となりました。

また、昨年度満足度が上位であった「尾鷲庁舎」、「四日市庁舎」、「津庁舎」では、昨年度からの減少幅が大きくなりました。

順位	地域庁舎	得点	昨年度比
1	熊野庁舎	70.11点	5.76点
2	伊勢(志摩)庁舎	67.45点	3.64点
3	桑名庁舎	66.28点	3.96点
4	尾鷲庁舎	65.28点	▲2.66点
5	松阪庁舎	63.75点	1.17点
6	四日市庁舎	62.49点	▲2.77点
7	伊賀庁舎	61.09点	1.29点
8	鈴鹿庁舎	59.90点	▲0.85点
9	津庁舎	57.74点	▲6.74点

④ 役職別

役職別の満足度については、昨年度と比較して、「課長補佐級(本庁の班長、地域の課長)」と「主任級」を除き、高くなりました。

順位	役職	得点	昨年度比
1	課長級以上	73.53点	0.89点
2	一般(主事、技師)	67.78点	1.20点
3	主任級	61.58点	▲0.11点
4	主査級	61.45点	1.09点
5	課長補佐級(本庁の班長、地域の課長)	60.43点	▲0.97点
6	課長補佐級(主幹等)	58.27点	1.33点

⑤ 勤続年数別

勤続年数別の満足度については、昨年度と比較して、「16年目～20年目」の増加幅が大きくなるなど、「26年目～30年目」以外で満足度が高くなりました。

順位	勤続年数	得点	昨年度比
1	36年目以上	68.53点	0.02点
2	5年目以下	67.62点	0.51点
3	31年目～35年目	63.83点	0.49点
4	16年目～20年目	63.49点	2.43点
5	6年目～10年目	62.20点	0.89点
6	26年目～30年目	60.71点	▲0.53点
7	11年目～15年目	60.53点	0.51点
8	21年目～25年目	60.25点	0.93点

(5) 満足度全体に影響する設問に関する分析

昨年度の有識者による分析において、満足度全体に影響が大きいとされた4つの設問項目（「休暇取得」、「業務量」、「総勤務時間」、「業務見直し」）について、各属性とのクロス集計を行いました。

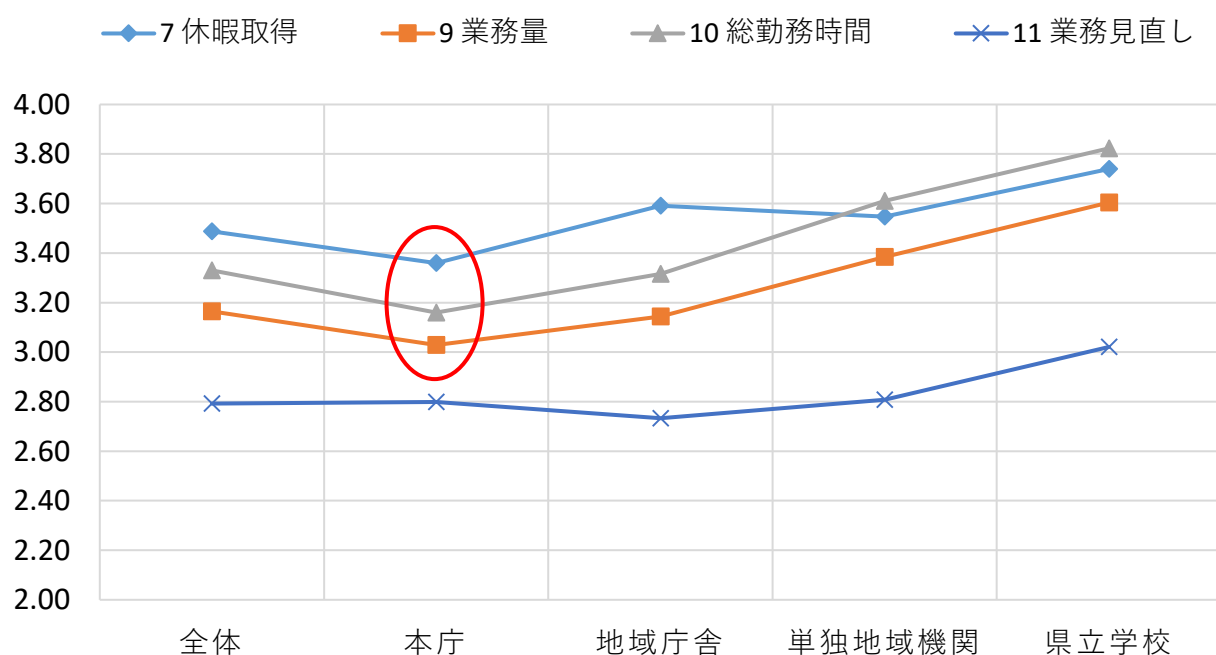
これらの設問について昨年度と比較すると、「休暇取得」と「総勤務時間」で0.14点、「業務見直し」で0.12点増加するなど、4項目中3項目の満足度の増加幅が大きくなりました。

昨年度比	設問内容		得点 (順位)
<u>+0.14点</u>	問7	休暇取得	3.49点 (8位)
+0.04点	問9	業務量	3.16点 (15位)
<u>+0.14点</u>	問10	総勤務時間	3.33点 (12位)
<u>+0.12点</u>	問11	業務見直し	2.79点 (24位)

① 所属区分別の比較

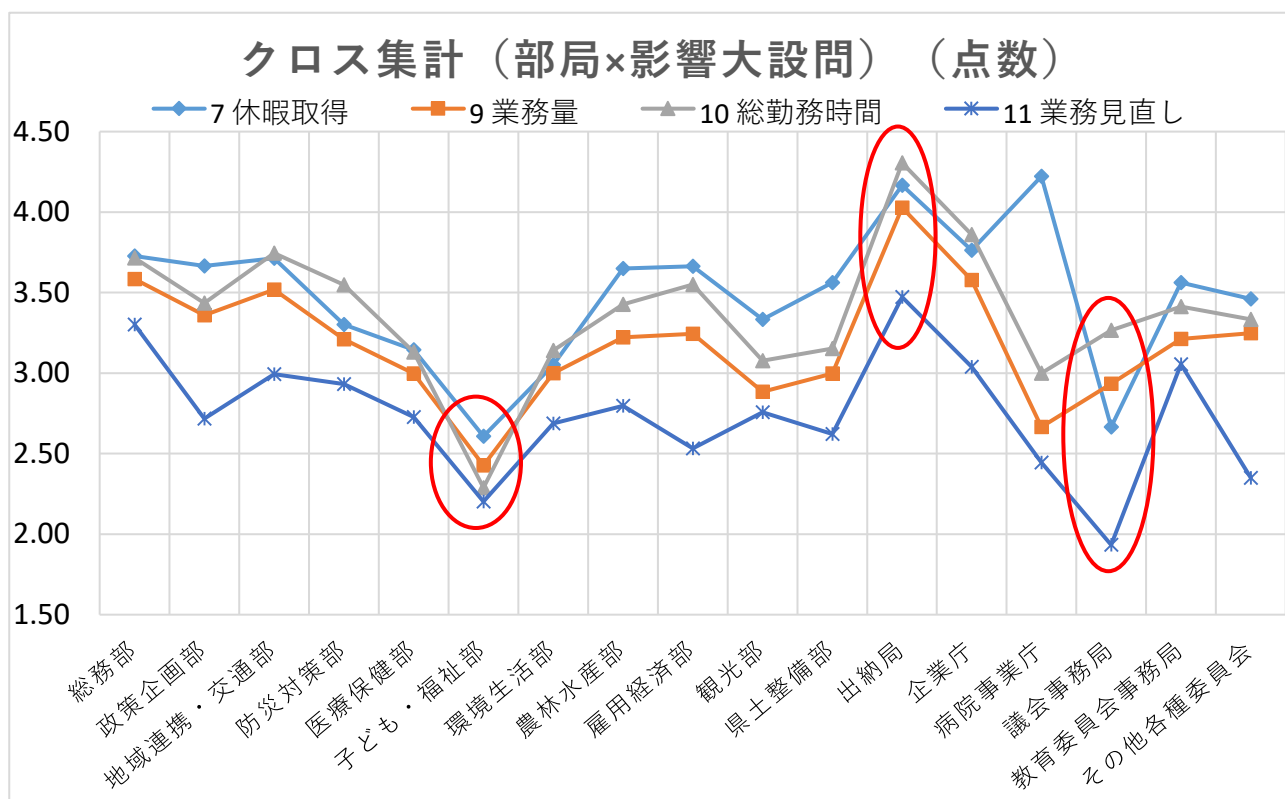
「休暇取得」「業務量」「総勤務時間」のいずれの項目においても「本庁」が最も満足度が低い結果となりました。また、「業務見直し」に関する満足度は、所属別で大きな差は見られない一方で、他の3項目と比較して満足度が低い結果となりました。

クロス集計（所属区分×影響大設問）（点数）



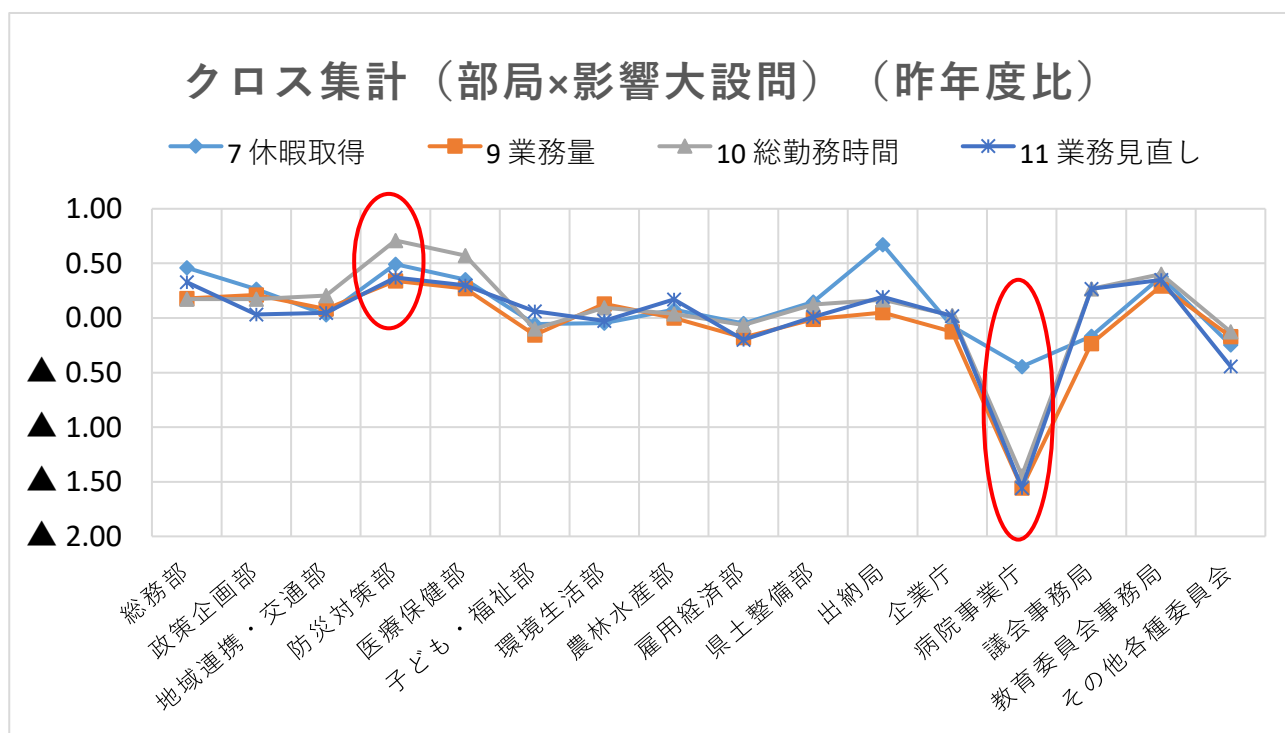
② 部局別の比較

「出納局」においてはいずれの項目も満足度が高い結果となりましたが、「子ども・福祉部」「議会事務局」においては、いずれの項目も低くなるなど、全体の満足度の結果と同様の傾向が見られました。



③ 部局別の比較（昨年度からの増減）

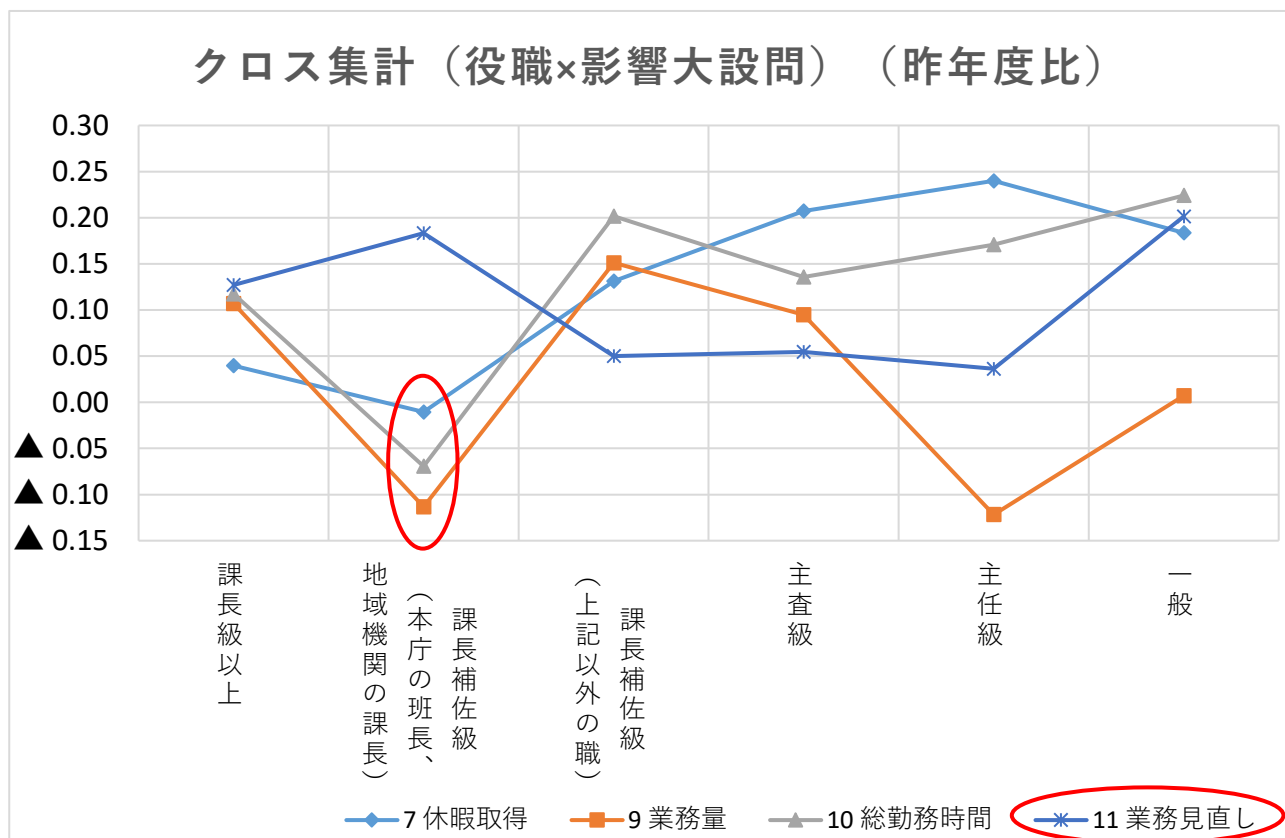
全体の満足度が昨年度から大きく上昇した「防災対策部」においては、いずれの項目においても増加幅が大きくなる一方で、昨年度から満足度が大きく減少した「病院事業庁」では、いずれの項目においても満足度が低下しました。



④ 役職別の比較（昨年度からの増減）

「課長補佐級（本庁の班長、地域の課長）」については、「業務量」「総勤務時間」の項目で満足度が大きく低下しました。また、「主任級」についても、「業務量」の項目で満足度が大きく低下しました。

一方で、全ての役職において「業務見直し」の項目で、満足度が昨年度より上昇しました。また、「休暇取得」の項目では、「課長補佐級（本庁の班長、地域の課長）」で満足度が微減しているものの、他の役職では大きく上昇しました。



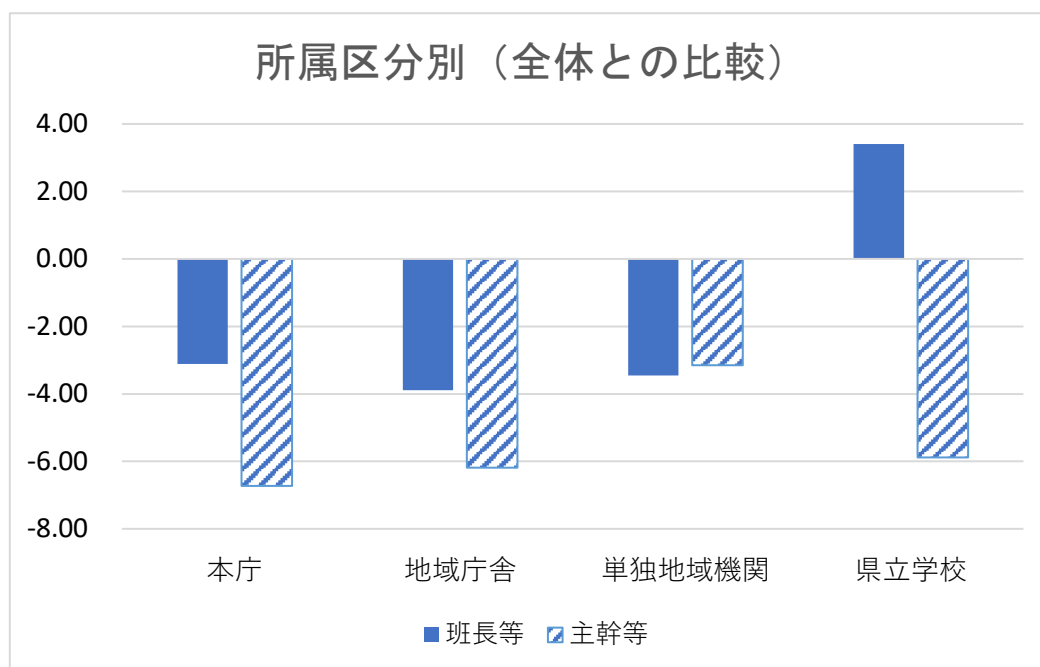
(6) 課長補佐級職員の満足度に関する分析

高年齢層職員のモチベーション向上対策の参考とするため、役職別で満足度が低かった、「課長補佐級（本庁の班長、地域の課長）」（以下「班長等」という。）及び「課長補佐級（主幹等）」（以下「主幹等」という）の満足度について、属性や設間との関係性の分析を行いました。

※ ここでは、昨年度との比較ではなく、全体の満足度との比較を行っています。

① 所属区分別の比較

所属区分別で比較すると、「県立学校」の「班長等」を除いた全ての所属において、「班長等」と「主幹等」の満足度については、全体よりも大きく下回りました。特に、「本庁」「地域庁舎」「県立学校」においては、「班長等」よりも「主幹等」の満足度が低い結果となりました。

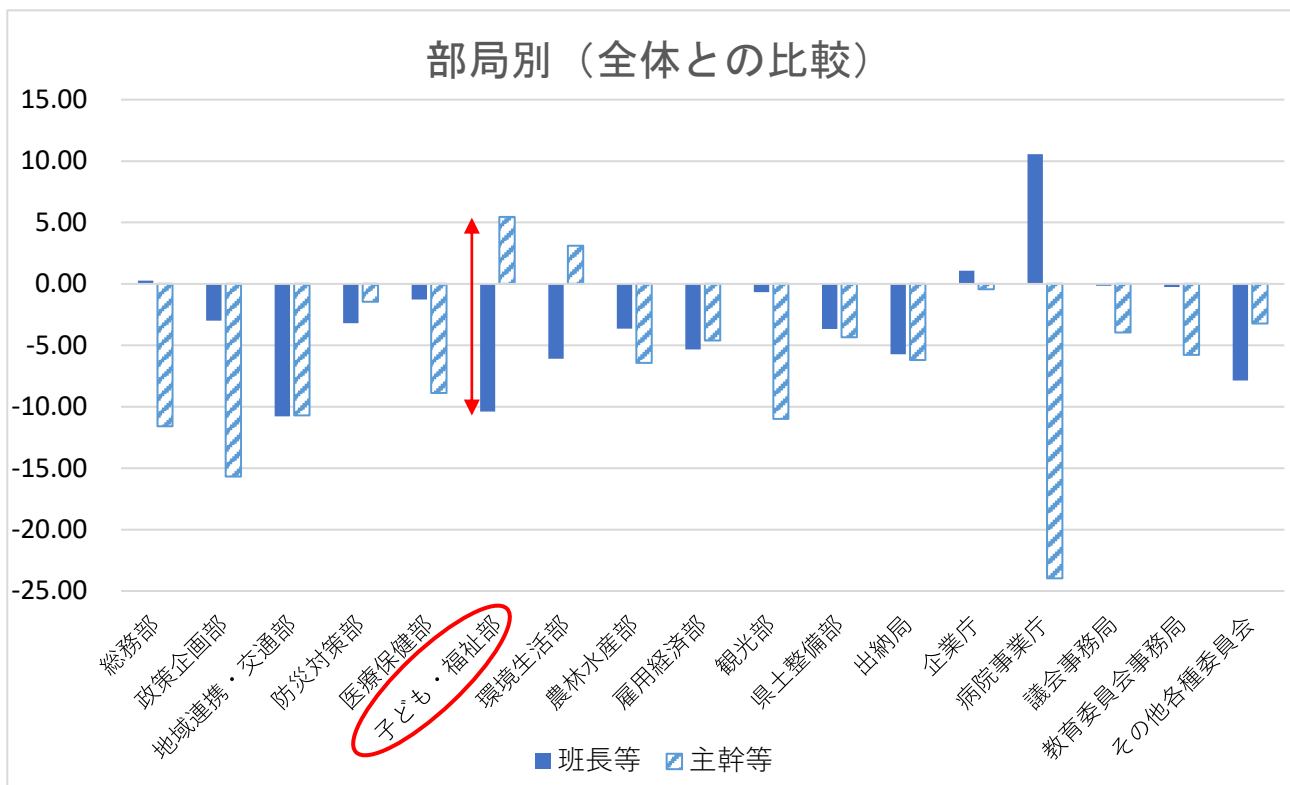


② 部局別の比較

部局別で比較すると、多くの部局で「班長等」「主幹等」の満足度が全体よりも下回りました。

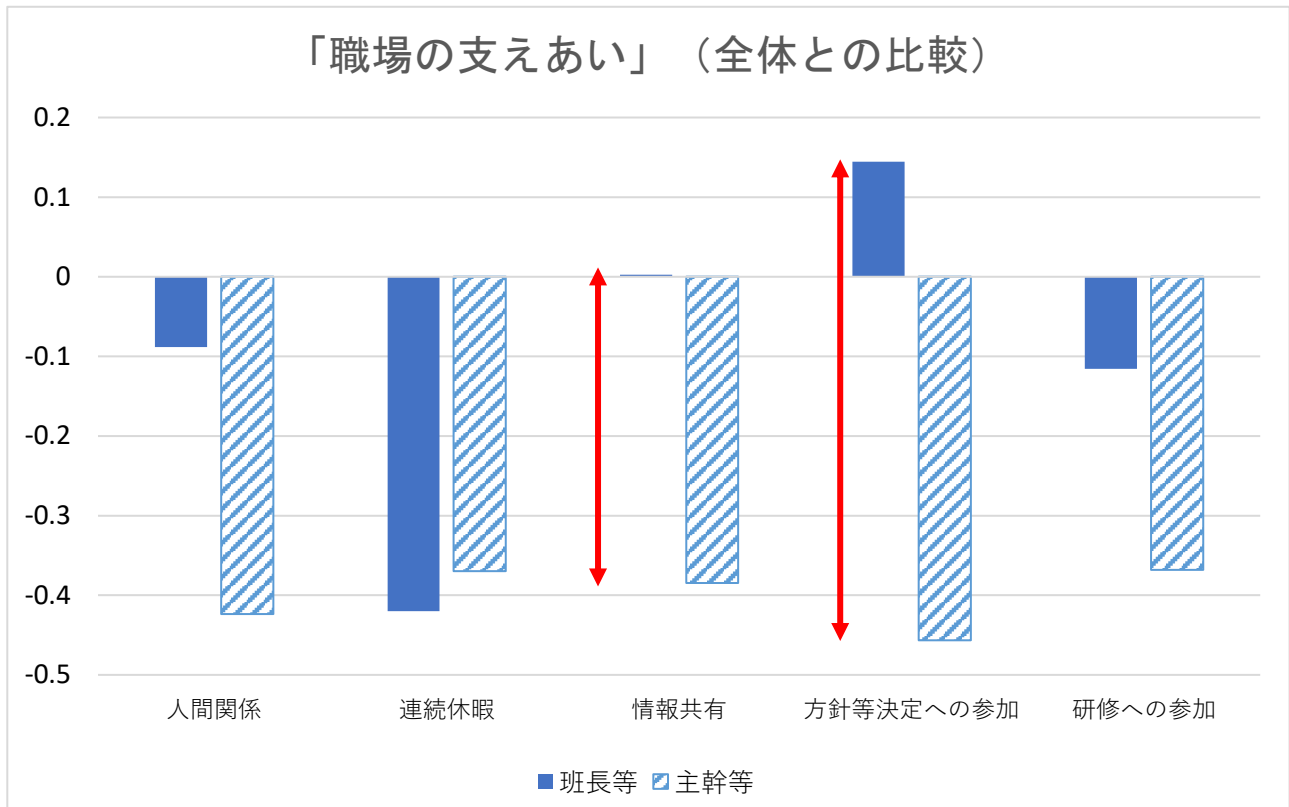
「総務部」「政策企画部」「医療保健部」「観光部」「病院事業庁」において「主幹等」の満足度が「班長等」よりも低く、その差が大きくなっています。

一方で「防災対策部」「子ども・福祉部」「環境生活部」「各種委員会」では「班長等」の満足度が「主幹等」より低くなっており、特に「子ども・福祉部」では「班長等」と「主幹等」の満足度は15点以上の差がついています。



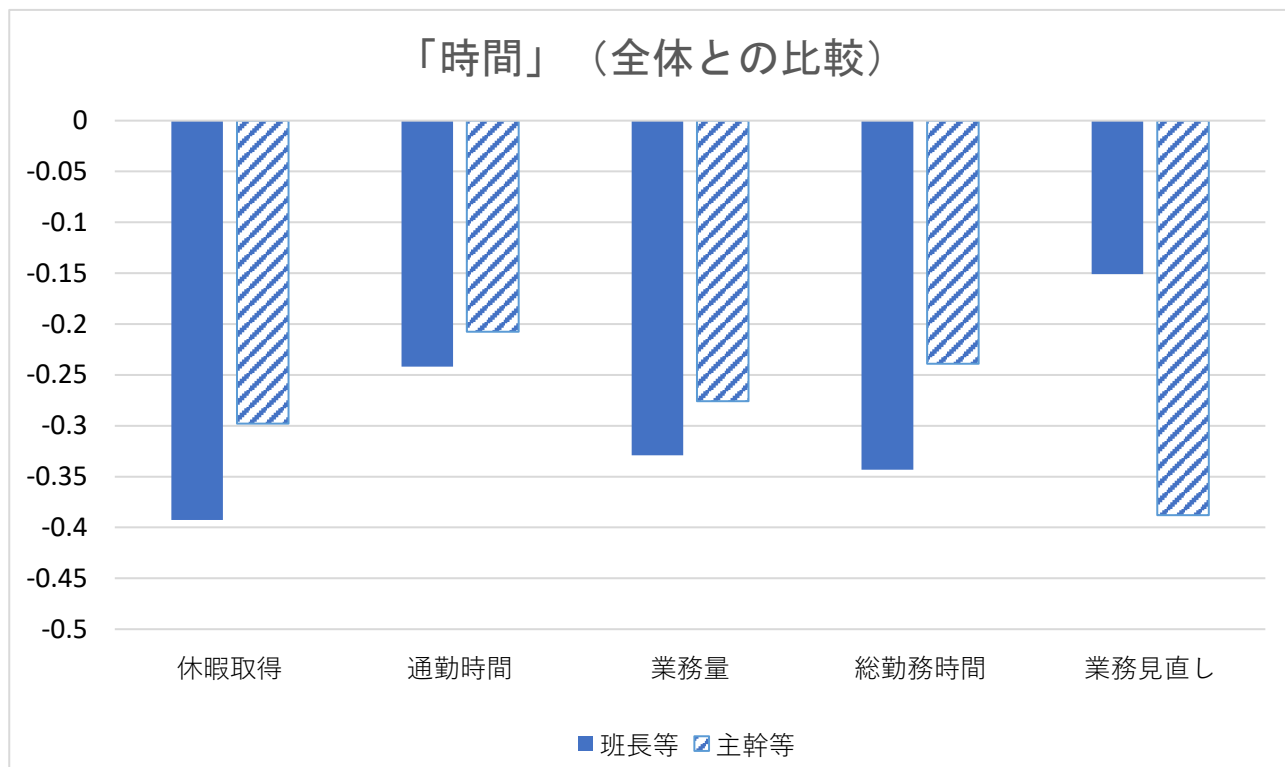
③ 「職場の支えあい」における状況

「職場の支えあい」に関するテーマの設問では、「連続休暇」以外の4つの設問（「人間関係」、「情報共有」、「方針等決定への参加」、「研修への参加」）で全て「主幹等」の満足度が「班長等」より低く、その差が大きくなっています。特に、「方針等決定への参加」「情報共有」の設問では、「班長等」と「主幹等」との差が大きく、0.5点近くの差がつく結果になりました。



④「時間」における状況

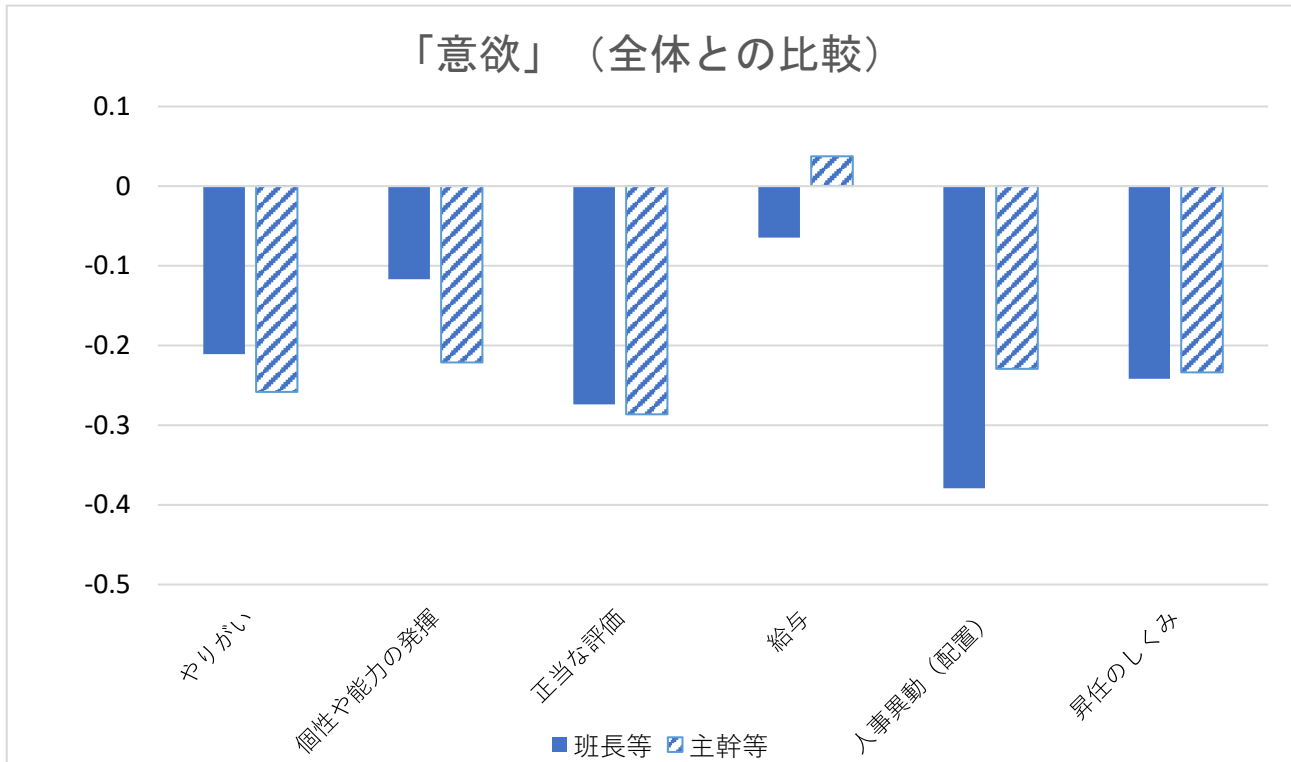
「時間」に関するテーマの設問では、全ての設問で全体よりも下回りました。また、「業務見直し」以外の4つの設問（「休暇取得」「通勤時間」「業務量」「総勤務時間」）で全て、「班長等」の満足度が「主幹等」より低くなっています。特に「休暇取得」「業務量」「総勤務時間」の設問については、「班長等」の満足度は全体よりも0.30点以上低い結果となりました。



⑤ 「意欲」における状況

「意欲」に関するテーマの設問では、「給与」を除く5つの設問（「やりがい」「個性や能力の発揮」「正当な評価」「人事異動（配置）」「昇任のしくみ」）で、全体よりも満足度が低い結果になりました。

「やりがい」「個性や能力の発揮」「正当な評価」の設問については、「主幹等」の満足度が「班長等」よりも低くなりました。



(7) 子ども・福祉部における追加アンケートの結果について

昨年度のアンケートの結果において、子ども・福祉部の満足度が他の部局よりも低くなったことをふまえ、職場の実態と詳細を把握するため、本年度のアンケート実施にあわせて、子ども・福祉部職員を対象とした追加のアンケートを実施しました。

※子ども・福祉部…特に本庁は5年間で約20ポイント低下（H30：69.86 → R4：49.11）

質問：あなたの仕事の満足度を高めるうえで、重要なものは何ですか。

重要と考えられる順に、3つ選択してください。

- 1_職場の環境（スペース、温度等）、2_精神的安定、3_健康への配慮、4_休暇
5_業務量、6_業務見直し、7_人間関係、8_やりがい、9_評価、10_給与、11_その他

<集計結果> ※所属区分ごとに上位5位までを掲載しています。

本庁(回答数:76)

項目	1番	2番	3番	ポイント
5_業務量	30	16	14	136
7_人間関係	15	10	6	71
2_精神的安定	8	10	14	58
6_業務見直し	4	11	6	40
3_健康への配慮	4	10	6	38

単独地域機関(回答数:32)

項目	1番	2番	3番	ポイント
2_精神的安定	10	4	8	46
7_人間関係	7	5	6	37
5_業務量	7	6	1	34
8_やりがい	2	6	2	20
6_業務見直し	3	2	3	16

児童相談所(回答数:74)

項目	1番	2番	3番	ポイント
5_業務量	17	11	15	88
2_精神的安定	13	13	9	74
7_人間関係	16	11	2	72
10_給与	7	10	13	54
1_職場の環境	7	9	6	45

福祉事務所(回答数:10)

項目	1番	2番	3番	ポイント
2_精神的安定	3	1	1	12
7_人間関係	2	2	0	10
10_給与	3	0	0	9
5_業務量	1	1	3	8
8_やりがい	1	1	2	7

※ 重要と答えた順に「1番：3ポイント」「2番：2ポイント」「3番：1ポイント」として配点し、合計ポイントを算出しています。

満足度を高めるうえで重要な要素として、「本庁」「児童相談所」において「業務量」が1位となりました。これは子ども・福祉部における「業務量」「総勤務時間」の設問の満足度が低かった結果と一致します。また、4つの所属区分ともに「精神的安定」「人間関係」が上位となりました。

「満足度を高めるために必要な取組」に関する自由記述意見においても、「業務量に応じた人員配置」「業務見直し」「業務配分の調整」など業務量の負担軽減を求める意見が「本庁」で41件、「児童相談所」で17件あり、「業務量」が満足度を高めるための大きな要因となっています。

また、「本庁」においては「管理職・所属長のマネジメント」に関する意見が9件、「児童相談所」においては、「人材育成」や「経験者の確保」などに関する意見が7件ありました。「単独地域機関」においては、「職場の風通し」に関する意見が7件ありました。

(8) 日本一、働きやすい県庁（しょくば）の推進に向けての自由記述意見

全体で延べ899件の自由記述意見があり、主な意見は次のとおりです。

① 仕事配分、業務量（人員配置）【167件、18.6%】

- ・業務量に見合った人員の配置をしてほしい。
- ・育休等取得を予定している職員のいる職場では、休業期間を想定した人員配置をしてほしい。
- ・やりがいはあるが、業務量が多すぎる。100%の仕事ができない。
- ・年度途中の業務追加が多いが、それに合わせた人的手当がなく、時間外は増える一方である。
- ・不適切事案が発生しているが、業務に追われ、チェック体制をしっかりとすることも難しい。

② 職場環境【72件、8.0%】

- ・スペースが狭い。文書を保管する場所も不足している。
- ・時間外にエアコンを停止するのをやめてほしい。
- ・パソコンの動作が遅く、非効率。

③ 業務改善【57件、6.3%】

- ・人数も予算もギリギリの状態、時間的・心理的余裕がなく、業務の見直しが難しい。
- ・早出・遅出、在宅勤務等制度があっても、利用できないほどに業務量が多い。
- ・余分な資料の作成が多い
- ・業務削減に対して、管理職員の意識改善が必要。不必要な業務は大胆に削減すべき。幹部職員が積極的に業務見直しに取り組んでほしい。

④ 子育て・介護への理解、制度の充実【57件、6.3%】

- ・育休等の制度はかなり整備されているものの、育休取得職員の業務に対するフォローが職場のマネジメント任せとなっている。所属の努力には限界がある。
- ・残った職員への制度面でのフォローがないため、育休を取得することで所属の人員が不足するという考えから、せっかく育休制度があっても取りづらさがある。
- ・ライフの充実を図る制度には、ワークを軽減するしくみが不可欠である。休暇取得の目標が先行して出勤日の時間外が増えるようでは、本末転倒である。
- ・管理職員が積極的に休暇取得を呼びかけ、取りやすい職場にすることが重要。

⑤ その他

- ・DX化をもっと推進するべき。効率的かつ柔軟な働き方を可能に。
- ・継続的な意見交換の機会やアンケート等、職員の声を聞く取組の実施が必要。
- ・仕事のモチベーションや働きやすさは、幹部職員や所属長によるところが大きい。
- ・危機感を持って、職員の待遇改善に取り組まなければ、今後、県庁の人材確保が難しい。
- ・知事レクの日程確保が困難であることや、一旦決まったレク時間が度々変更になるため、レクの準備など無駄に働くことが非常に多く、全庁的にモチベーションが大きく下がっている。

(9) 結果のまとめ

① 全体的な満足度について

全体の満足度は、昨年度と比較して0.77ポイント上昇し63.9点となりました。設問別に見ると、昨年度から点数が下がった項目は6つありますが、いずれも下がり幅は0.1未満と小さく、全体的に満足度は増加しているといえます。

設問別の満足度を昨年度と比較すると、増加幅の大きい項目は「休暇取得」「総勤務時間」「業務見直し」であり、テーマ別に見ても、「時間」「LWM」の項目の増加幅が大きくなっています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症対策業務について、一定収束がみられるとともに、全庁的な応援体制も縮小・終了したことから、職員一人あたりの負担が軽減されたことが、点数が上がった要因の一つであると考えられます。

また、テーマ別に見ると依然として「意欲」に関する満足度が低く、特に「昇任の仕組み」や「人事異動（配置）」の点数が低い結果となりました。

② 部局別の満足度について

全庁的な満足度は微増する一方で、部局別の満足度を見ると、昨年度満足度が最も低かった「子ども・福祉部」については、昨年度よりもさらに満足度が低下し、54.23点となりました。また、この結果についてテーマ別に見ると「時間」「LWM」に関する満足度が低く、全体との差も大きくなっています。これは、今年度、県内で認定子ども園での不適正保育や児童虐待死亡事案など、子どもの命に関する事案が多数発生したことに伴い、緊急に対応する必要があるため、「虐待防止対策等子どもの命を守る取組」を中心に、業務量が増加したことが大きな理由であると考えられます。

また、子ども・福祉部への追加アンケートの結果においても、「本庁」「児童相談所」では満足度を高めるために「業務量に応じた人員配置」「業務見直し」「業務配分の調整」を重視する意見が多くみられたことから、これらの課題に適切に対応していくことが重要であると考えられます。

③ 満足度全体に影響が大きいと考えられる設問について

昨年度の有識者による分析において、「休暇取得」、「業務量」、「総勤務時間」、「業務見直し」の4つの項目が特に満足度全体への影響が大きいとの見解が示されました。この分析結果をふまえ、今年度の満足度の結果を検証すると、各部局の満足度の増減と大きな相関関係が見られました。今後、職員満足度の向上に向けて、これら4項目に留意した取組が重要であるといえます。

また、役職別に昨年度と比較したところ、課長補佐級（班長等）において、「業務量」「総勤務時間」の項目で満足度が大きく低下しました。一方で、いずれの役職においても「業務見直し」の項目で、満足度は上昇しており、これまで労使でワーク・マネジメントの取組として、業務改善に継続して取り組んできた効果が一定あらわれているものと考えられます。

④ 課長補佐級職員の満足度について

高年齢層職員のモチベーション向上が課題となっている課長補佐級職員については、全体の満足度と比較して、ほぼ全ての所属区分において満足度が低い結果となりました。課長補佐級職員のうち、「班長等」よりも「主幹等」の満足度が低くなり、特に「方針等決定への参加」「情報共有」の項目において顕著な差が見られました。

一方で、「班長等」では「休暇取得」「業務量」「総勤務時間」の項目において「主幹等」よりも満足度が低く、「班長等」への業務負担が大きくなっていることが考えられます。

3 今後の取組

今年度のアンケート結果（数値、自由記述意見等）について各部局へ情報共有し、各部局等労使協働委員会において課題や今後の対策を検討するとともに、今後ともアンケート分析結果をふまえて、労使協働で高年齢層職員のモチベーション向上も含め、職員の満足度向上に向けた取り組みをより一層推進していきます。